

株主のみなさまへ

第162期 中間報告書

平成28年4月1日から平成28年9月30日まで



株式会社 大阪ソーダ

証券コード：4046

<http://www.osaka-soda.co.jp/>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.osaka-soda.co.jp/ (ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合、日本経済新聞に掲載する方法により行います。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問合せください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

単元未満株式をお持ちの株主さまへ

当社は、1単元(1,000株)に満たない当社株式を所有されている株主さまの便宜をはかるため、「単元未満株式の買増・買取制度」を実施しております。
お手続きなどの詳細に関しましては、証券会社にて株式を管理されている場合はお取引先の証券会社に、特別口座にて株式を管理されている場合は、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。

当社グループをより知っていただくために、ホームページもご活用ください。

- 最新の情報はこちらをご覧ください。
ホームページアドレス
<http://www.osaka-soda.co.jp/>



トップページ

こんなところに
大阪ソーダ



世界的な地球温暖化に対する問題意識の高まりにともないタイヤにも車の燃費を低減させることが求められています。
カブラスは低燃費タイヤの添加剤として、タイヤの転がり抵抗を減少させることにより燃費の改善に貢献しています。



株式会社 大阪ソーダ

本社
〒550-0011 大阪市西区阿波座1-12-18
TEL.06-6110-1560



Something Better with Chemicals

車の燃費を向上させ、
環境にやさしい
ドライブを叶える。



株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループは、第162期中間期(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)の決算を行いましたので、ここに事業の概況についてご報告申し上げます。

平成28年12月

代表取締役
社長執行役員 **佐藤 存**

事業の経過およびその成果

当中間期におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな景気回復基調が続いているものの、急激な為替変動による企業業績の収益悪化懸念、中国をはじめとするアジア新興国や資源国の景気減速により、先行き不透明な状況で推移しました。

このような環境のもと、当社グループは、機能化学品を軸とする高付加価値事業の拡大強化、基礎化学品事業のコストダウンによる競争力強化など、環境変化の影響を受けにくい収益体質の構築を図ってまいりました。

以上の結果、当中間期の連結売上高は、為替等の影響を受けて、459億1千7百万円と前年同期比8.8%の減少となりました。利益面においては、機能化学品の伸長により、営業利益は32億4千8百万円と前年同期比5.5%の増加となりました。経常利益については、為替差損の影響もあり26億円と前年同期比20.1%の減少、親会社株主に帰属する四半期純利益も17億6千4百万円と前年同期比10.8%の減少となりました。

なお、中間配当金につきましては、1株につき5円とさせていただきます。通期では10円を予定しております。

通期の見通し

今後の見通しにつきましては、国内は、雇用および所得水準の改善を背景に、個人消費の持ち直しにより、景気は緩やかな回復基調を持続することが期待されますが、中国をはじめとするアジア新興国の景気減速が、国内景気を下押しする懸念があります。

このような情勢のもと、当社グループは基礎化学品で

は、アリルクロライド・エピクロルヒドリン事業の競争力強化を図るため、コスト低減を推進し、国内外での事業拡大に取り組んでまいります。また、クロール・アルカリ事業につきましては、地域別に供給体制および物流機能を強化し、市場に密着した営業活動を展開してまいります。

機能化学品では、誘導製品の一層の拡大強化を図るとともに、合成樹脂および合成ゴム製品の品揃えを充実させ、事業の拡充を図ってまいります。ヘルスケア関連事業の強化につきましては、当社グループの第三の収益の柱と位置づけ、周辺事業や新たな技術を実現するため、重点的に経営資源を投入してまいります。医薬品精製材料では、欧米および新興国での拡販に取り組むとともに、生産能力の増強を推進し、顧客需要に対応できる体制を構築してまいります。医薬品原薬・中間体では、積極的に新規受託案件の開拓を推進してまいります。

住宅設備ほかは、収益力強化のため、営業体制の見直しなど事業再構築に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましても、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



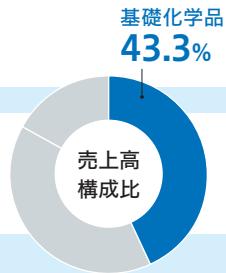
OSAKA SODA

グループ企業理念

高い志をもち 独創的なものづくりで 豊かな社会の実現に貢献します

基礎
化学品

売上高 199億2百万円 前期比9.2%減少 ↓



クロール・アルカリは、市況軟化の影響により売上高が減少しました。

エピクロルヒドリンは、海外向け輸出が増加しましたが、為替等の影響により、売上高が減少しました。

以上の結果、基礎化学品の売上高は199億2百万円と前年同期比9.2%の減少となりました。

売上高

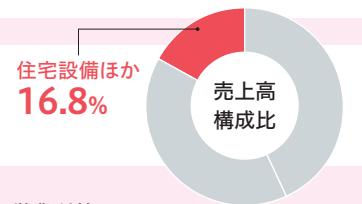


営業利益



住宅設備
ほか

売上高 77億円 前期比24.1%減少 ↓



エンジニアリング事業は堅調に推移しましたが、化粧板および生活関連商品の販売が低調に推移したため、売上高は77億円と前年同期比24.1%の減少となりました。

売上高

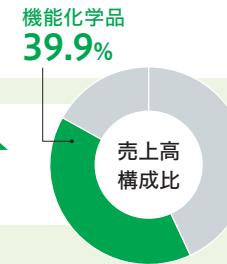


営業利益



機能
化学品

売上高 183億1千3百万円 前期比0.2%増加 ↑



医薬品精製材料は、国内および中国向け販売が堅調に推移したことに加えて、欧米向けペプチド医薬品精製用途向け販売にも注力しましたので、売上高が増加しました。

医薬品原薬・中間体は、循環改善剤の原薬、抗ウイルス薬の中間体、および開発医薬品の受託製造が堅調に推移し、売上高が増加しました。

ダップ樹脂は、UVインキ用途での国内および欧米市場での販売が堅調に推移し、売上高が増加しました。

アリルエーテル類は、欧米、中国向け輸出が堅調に推移したため、売上高が増加しました。

エピクロルヒドリンゴム関連は、中国をはじめとするアジア向け輸出が堅調に推移し、販売数量は増加しまし

売上高



営業利益



たが、円高の影響により販売単価が下落し、売上高が減少しました。

以上の結果、機能化学品の売上高は183億1千3百万円と前年同期比0.2%の増加となりました。

大阪ソーダグループのセグメントと主要製品

●セグメント

基礎化学品

機能化学品

住宅設備ほか

●主要製品

かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス、エピクロルヒドリン、アリルクロライド、塗料原料、接着剤原料 など

アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、医薬品精製材料、レンズ材料、感光性樹脂、カラーレジスト、電極、医薬品原薬・中間体、光学活性体、グラスファイバー、資源リサイクル など

ダップ加工材、住宅関連製品、健康食品、化学薬品の輸送・貯蔵、化学プラント、環境保全設備建設 など

「化学でもっといいこと。」を企業スローガンに
幅広い分野に製品を提供しています。

基礎化学品

クロール・
アルカリ編

基礎化学品セグメントの主力製品であるかせいソーダなどのクロール・アルカリ製品群は
さまざまな用途で使用され、わたしたちの日常の生活シーンで活躍しています。

病院



水道

低食塩次亜塩素酸ソーダ
殺菌に使用されています。
JWWA(日本水道協会)規格適合品です。



液体石鹼
かせいカリ

液体石鹼の原料に使用されています。



白衣

亜塩素酸ソーダ
繊維の漂白に使用されています。



紙おしぼり

オスロン(安定化二酸化塩素水溶液)
消臭・除菌に使用されています。

学校



プール

低食塩次亜塩素酸ソーダ
殺菌・消毒に使用されています。



固形石鹼

かせいソーダ
油脂と反応させて固形石鹼の原料として
使用されています。



トイレの洗剤

塩酸
低濃度のものが使用されています。



画用紙

塩素酸ソーダ
環境対応型漂白剤に使用されています。

オフィス



ノートパソコン
ディスプレイパネル

塩化第二鉄
プリント配線、写真製版のエッチングに
使用されています。



CD・DVD

液化塩素
ポリカーボネートの製造工程に
使用されています。



コピー用紙

かせいソーダ
紙を作る工程で使用されています。



本

塩素酸ソーダ
紙・パルプの漂白に使用されています。

田畑



化成肥料

かせいカリ
窒素、リン酸、カリの3要素をバランスよく含んで
おり、安全な化学肥料として広く流通しています。

家庭



醤油
味噌

塩酸、かせいソーダ
醤油・味噌のアミノ酸合成に
使用されています。



化学調味料

かせいソーダ
化学調味料の製造工程に
使用されています。



まな板の除菌、漂白

次亜塩素酸ソーダ
漂白剤として塩素系のものが
使用されています。



ワイシャツ

亜塩素酸ソーダ
繊維の漂白に使用されています。



新聞

かせいソーダ
紙を作る工程で使用されています。

自社生産のAC・EPを原料にグローバルニッチ製品を展開

当社のものづくりの出発点は塩の電気分解からスタートしています。この工程から、かせいソーダや塩素などの基礎化学品が生産されます。当社では発生した塩素をプロピレンと反応させAC(アリルクロライド)からEP(エピクロルヒドリン)を製造している点が、他のクロール・アルカリメーカーとの差別化につながっており、これらを原料にすることに

よって特殊な樹脂やゴムを中心とする機能化学品を生み出しています。

当社の機能化学品事業に代表されるグローバルニッチ製品は、原料からの一貫生産によるコスト競争力と、独創的な特長を兼ね備えたものとなっています。このように当社は両事業の相乗効果によって成長を目指すビジネスモデルを構築しています。



AC=アリルクロライド、EP=エピクロルヒドリン

個人投資家向け説明会を大阪で開催

2016年8月30日(火)、梅田クリスタルホール(大阪市)にて、個人投資家約400名のご出席のもと、大手情報通信会社2社と合同で「個人投資家向け説明会」(野村アイ・アール主催)を開催しました。2社のプレゼンテーションに続いて当社の説明を行いました。

佐藤社長より、「大阪ソーダの事業と特長」「業績

と経営戦略」「株主還元」についてご説明し、投資家のみなさまにご理解を深めていただきました。

また、多くの方々からアンケートを通じて貴重なご意見をいただきました。

当社は今後も積極的なIR活動を行い、知名度の向上と企業認知の拡大につなげられるよう努めてまいります。



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

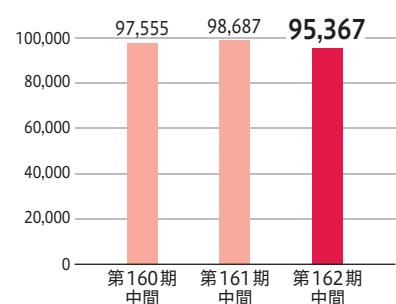
科目	前中間連結会計期末 (平成27年9月30日現在)	当中間連結会計期末 (平成28年9月30日現在)	前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成28年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	58,611	56,283	57,137
固定資産	40,076	39,083	39,890
有形固定資産	19,822	20,277	20,357
無形固定資産	1,105	1,171	1,192
投資その他の資産	19,148	17,634	18,339
資産合計	98,687	95,367	97,027
負債の部			
流動負債	31,082	29,995	30,669
固定負債	19,228	16,425	18,062
負債合計	50,310	46,421	48,731
純資産の部			
株主資本	42,211	44,548	43,312
その他の包括利益累計額	6,164	4,397	4,983
純資産合計	48,376	48,946	48,296
負債純資産合計	98,687	95,367	97,027

中間連結損益計算書(要約)

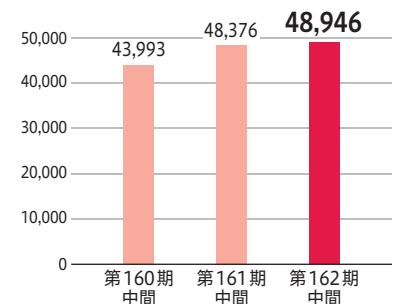
(単位:百万円)

科目	前中間連結会計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当中間連結会計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	前連結会計年度の 要約連結損益計算書 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
売上高	50,347	45,917	102,125
売上原価	41,859	36,837	84,357
売上総利益	8,488	9,079	17,767
販売費及び一般管理費	5,408	5,831	11,324
営業利益	3,080	3,248	6,443
営業外収益	232	250	633
営業外費用	56	898	637
経常利益	3,255	2,600	6,439
特別利益	18	—	18
特別損失	322	262	727
税金等調整前中間(当期)純利益	2,952	2,338	5,730
法人税、住民税及び事業税	904	673	2,029
法人税等調整額	70	△100	94
中間(当期)純利益	1,977	1,764	3,606
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,977	1,764	3,606

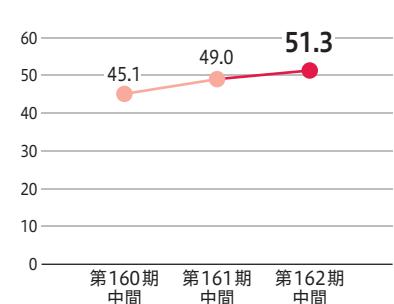
総資産 (単位:百万円)



純資産 (単位:百万円)



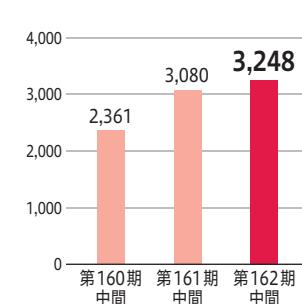
自己資本比率 (単位:%)



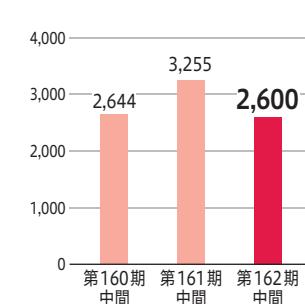
売上高 (単位:百万円)



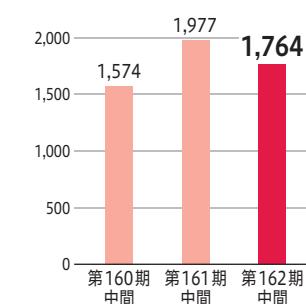
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



中間純利益 (単位:百万円)



中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

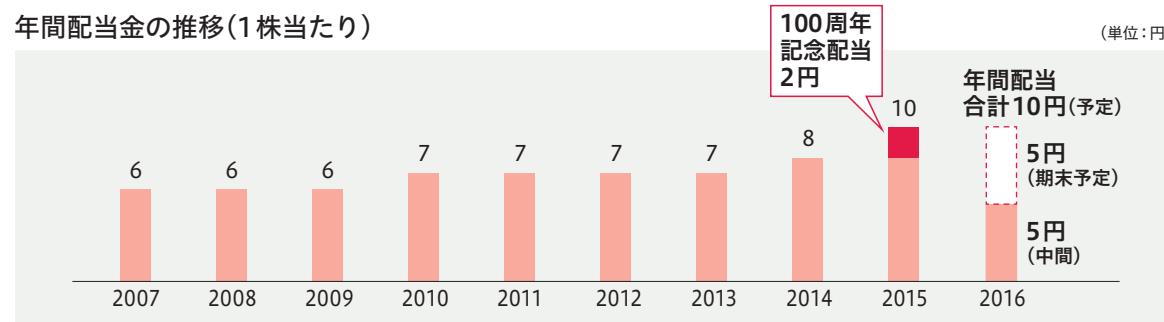
科目	前中間連結会計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当中間連結会計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,068	5,138	5,031
投資活動によるキャッシュ・フロー	△791	△1,769	△2,535
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,663	△1,747	△3,433
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	△745	△423
現金及び現金同等物の増減額	△1,371	876	△1,360
現金及び現金同等物の期首残高	20,095	19,036	20,095
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	19,025	19,912	19,036

2016年度中間期の配当について

2016年11月7日の取締役会決議により1株当たり配当を5円とさせていただきます。
 期末配当金につきましても5円を予定しており、年間配当は10円となる見通しです。
 なお、中間期の配当金のお支払いは、2016年12月6日とさせていただきます。

年間配当金の推移(1株当たり)

(単位:円)



株式の状況

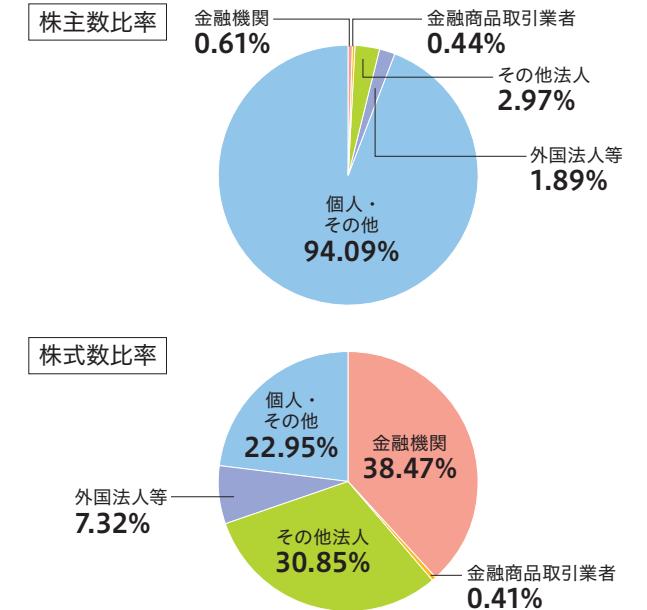
発行可能株式総数 ----- 300,000,000株
 発行済株式の総数 ----- 111,771,671株
 株主数 ----- 5,870名

大株主一覧(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,721	4.48
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,384	4.16
株式会社福岡銀行	4,113	3.90
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3,842	3.64
株式会社伊予銀行	3,744	3.55
帝人株式会社	3,393	3.22
株式会社みずほ銀行	3,348	3.17
日本生命保険相互会社	3,188	3.02
旭化成株式会社	2,933	2.78
ダイソー協栄会	2,913	2.76

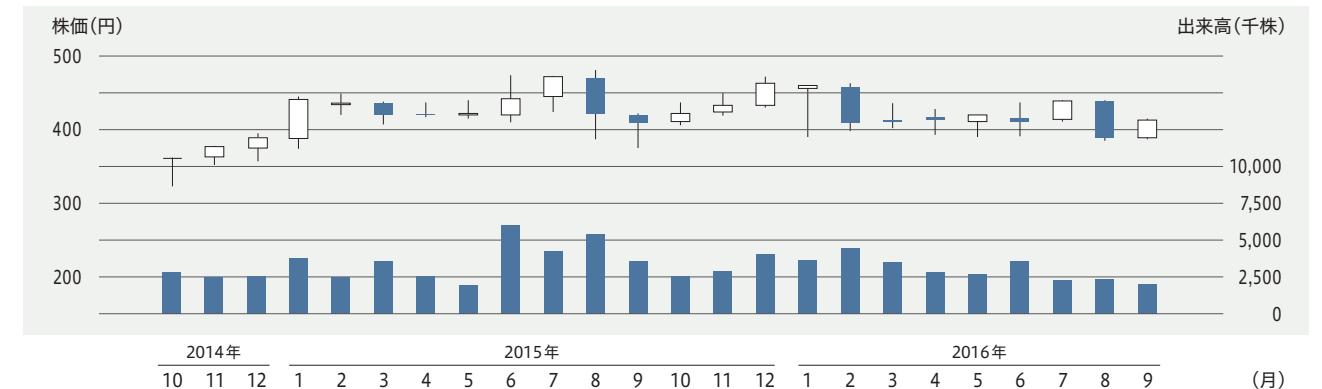
(注)出資比率は、発行済株式の総数から自己株式(6,422,875株)を控除して計算しております。

株主分布状況



(注)「個人・その他」には、当社の自己株としての保有分(5.75%)が含まれております。

株価および出来高の推移



社 名 ----- 株式会社大阪ソーダ
 OSAKA SODA CO., LTD.
 U R L ----- <http://www.osaka-soda.co.jp/>
 創 立 ----- 1915年(大正4年)10月26日
 資 本 金 ----- 10,882百万円
 連結従業員数 ----- 848名

子会社等の状況

国内

会 社 名	主要な事業内容
ダイソーケミカル(株)	化学製品の販売
ダイソーエンジニアリング(株)	電極の製造販売、化学設備の設計・施工
サンヨーファイン(株)	医薬品原薬・中間体の製造・販売
(株)ジェイ・エム・アール	資源リサイクル
DSロジスティクス(株)	化学製品の運送取扱い
岡山化成(株)	化学製品の製造
DSウェルフーズ(株)	健康食品の製造、加工販売

海外

会 社 名	主要な事業内容
大曹化工貿易(上海)有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
台湾大曹化工股份有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
DAISO Fine Chem USA, Inc.	シリカゲルの販売、カラムの製造販売
DAISO Fine Chem GmbH	シリカゲル、医薬品原薬・中間体の販売
DAISO CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.	機能化学品・電子材料等の輸出入

役員(平成28年10月1日)

[取締役・監査役]

代表取締役 社長執行役員	佐藤 存
取締役 常務執行役員	赤松 伸一
取締役 常務執行役員	寺田 健志
取締役 上席執行役員	堀 登
取締役 上席執行役員	古川 喜朗
取締役(社外)	福島 功
取締役(社外)	二村 文友
常勤監査役	瀬川 恭史
常勤監査役(社外)	谷口 隆治
監査役(社外)	森 真二

[執行役員]

執行役員	高野 早人
執行役員	小西 淳夫
執行役員	門屋 純一
執行役員	雑賀 哲行
執行役員	北野 智之
執行役員	中島 与志明
執行役員	川端 一弥
執行役員	西本 光伸
執行役員	森 裕治郎

